

豊  
典

違いを豊かさに

違

かさ  
に

い  
を

## 違いが豊かさにならないとき…

このパンフレットの表紙を見たときに、どう感じられましたか。同じパンフレットを見ても、感じることは人さまざまです。人と違っていると、「個性的だ」とか「ユニークだ」とかほめられることもあります。でも、人と違うという理由でいじめられたり、自分では変えようがない違いから差別されたりすることも少なくありません。お互いに違いを認め合えたら幸せに暮らせるのに、なぜ、そうできないのでしょうか。どうすれば、違いを乗り越え、より良い人間関係を築くことができるのでしょうか。

"違いを豊かさに"するために・・・いっしょに考えてみませんか。

### 1 家族やグループで

一つ屋根の下で過ごしていても、同じ職場に勤めていても人それぞれです。同じ趣味の仲間が集まっても、すべて同じというわけではありません。

グループの中で、お互いの間にこんな違いがあるよということを探してみましょう。そして、その違いがあるために、いやな経験をしたこと、うれしい経験をしたことなどを出し合ってみましょう。



#### ◆ 気づいた違い

#### ◆ いやだったことやうれしかったこと

## 気づかないままに・・・

私たちは、自分にとってあまりに当たり前であるために、そのことに気づかずに生活していることがあります。

足の具合が悪くなると、日頃、何気なく歩いていた家や学校、勤め先などの階段が気になり始めます。歩いたり、立ったり、座ったり、物を持ったり・・・体を動かすたびに自分の健康を意識している人は少ないでしょう。「病気になって初めて健康のありがたさが分った」そんな声を聞くことがあります。

前ページで出し合っていたことや、うれしかったことの中で、自分にとって気づかないまま、「不利になっていたこと」や「有利になっていたこと」はないでしょうか・・・。



## 2

## 話の続きをつくってみましょう

一人ひとりで、次の話の続きをつくり紹介しましょう。

ある小学校5年生の学級でのことです。まさるさんがかおるさんに「やめろよ」と大きな声で言いました。みんなは二人を見ました。

◆ 話の続きをわたしがつくったら…

◆ みんな同じ話になりましたか。

◆ 違いがあったとしたら、それはなぜだと思いますか。

◆ わたしたちの考え方や発想は何に影響されていると思いますか。



## うわさのはじまり

誰かが何かを見聞きしました…。その"事実"が人から人へと伝えられました…。けど…。

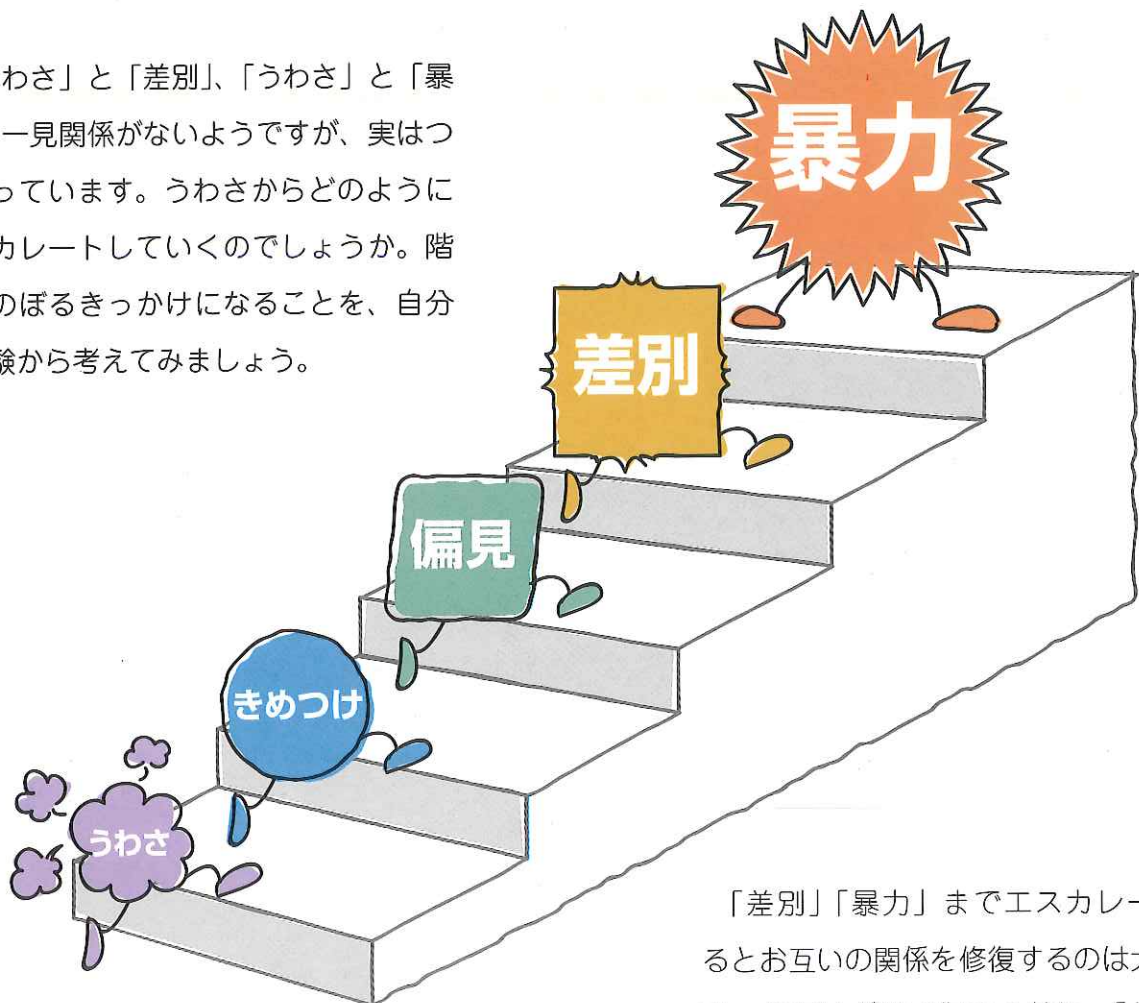
わたしたちが、見聞きし覚えていることは、その人の興味・関心や経験という個人的なフィルターを通過しています。ですから、"事実"のとらえかたは、人それぞれ少しずつ違うのです。その少しずつ違う"事実"が人から人へと語り継がれます。

また、人は、はっきりとした部分は覚えています。が、不確かな細かいことは忘れてしまいます。話を面白おかしくするために、誇張することもあります。実際に起こったことよりも「そうあるべきだから」「いつもそうだから」と思って伝えているかもしれません。

### 3

### うわさの階段

「うわさ」と「差別」、「うわさ」と「暴力」、一見関係がないようですが、実はつながっています。うわさからどのようにエスカレートしていくのでしょうか。階段をのぼるきっかけになることを、自分の体験から考えてみましょう。



「差別」「暴力」までエスカレートするとお互いの関係を修復するのは大変です。お互いが深く傷つく前に、「うわさのはじまり」や「うわさの階段」について、きちんと知ることが大切です。

## 4

## それは " 事実 " ? それはあなたの " 考え " ?

A子の学級に、B子が転校してきました。B子は、みんなと話すことはほとんどなく、教室では、いつもひとりで過ごしていました。A子は、ある日、友達のC子に話をしました。

A子：ねえ、B子さんなんだけど、話しかけてもうつむいて何も話してくれないし、いつもひとりにいるよね。あのね、うちのお母さんに聞いた話なんだけど、彼女が前に通っていた学校は、最近、いじめがあった学校らしいわよ。もしかして、B子さんってその学校でいじめられていたんじゃないかなあ。

それを聞いたC子は、学級みんなに、B子が、前の学校でいじめられていたからこの学校に転校してきたと伝えました。人権感覚が十分に育っていなかったA子の学級では、ますますB子を孤立させてしまうようになりました。



考えてみましょう。

◆ B子の日頃の様子はどうでしたか。

◆ A子は母から、B子についてどんなことを聞いていましたか。

◆ それらのことから、A子はB子についてどう思いましたか。

◆ A子から話を聞いたC子は、どうしましたか。

### " 事実 " と " 考え "

" 事実 " と思っていたことが、実は単に個人的な " 考え " であったり、社会にひろがっている " 偏見 " であったりします。人から聞いたこと、テレビやインターネットで知ったことをそのまま鵜呑みにするのではなく、「本当かな」「実際は、どうだったのだろう」とじっくり立ち止まって考えてみることも必要ですね。



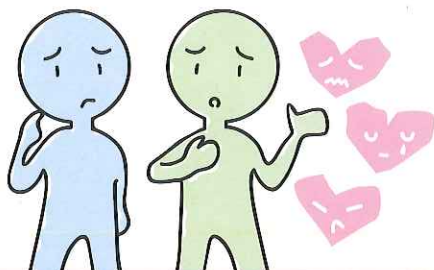
## 5

## 偏見・差別をなくすために…

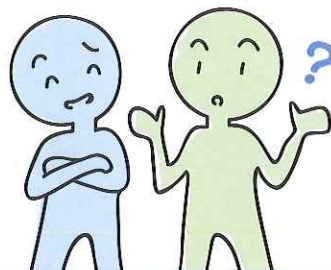
4の事例の「B子さんってその学校でいじめられていたんじゃないかなあ」は、A子の「考え」です。A子は、B子がおとなしくてあまり話をしないことと母親から聞いた話から、「その学校でいじめられていた」という言葉を使ったのです。ところが、B子は、たまたまその学校から転校してきて、しかも、おとなしい性格の子ただただかもしれません。このちょっとしたズレからも「うわさの階段」を駆け上ってしまうことがあります。

偏見や差別にかかわるトラブルに遭遇したとき、わたしたちはどうすればよいのでしょうか。

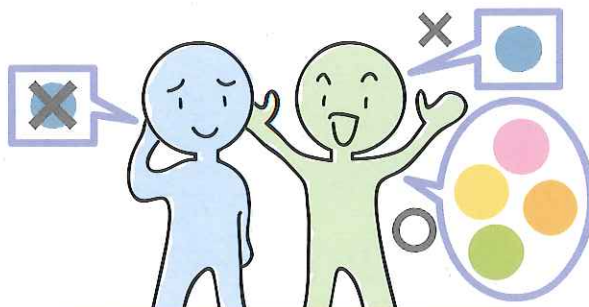
## 個人にできる「5つのヒント」



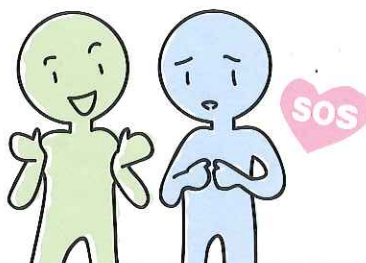
どんな気持ちになったか伝える。



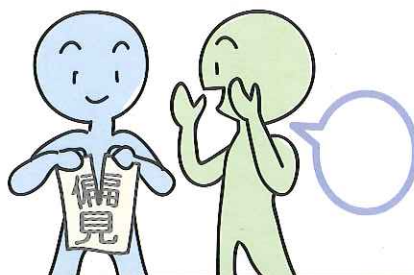
なぜそうしたのかを説明してもらおう。



きめつけない。



時には個人的に話したい、  
必要ならサポートを求める。



偏見を見直せるような情報を提供する。

自分自身が公平な態度を身につけることや、  
日頃から偏見・差別についてオープンに話  
れるようにしておくことも大切です。



人はさまざまな文化の中で生きています。習慣や考え方、経験、立場も違います。そこに、社会的、個人的な力関係が働くと、「異質性」の要素がある人は、変わっていると思われたり、社会的弱者として排除されたりします。さまざまな違いを乗り越え、互いが豊かな人間関係を築いていくことは、とても大切なことです。身のまわりにある小さなことから変化をうみだしていければ素晴らしいですね。このパンフレットがその第一歩になれば幸いです。

■お問い合わせ

和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課人権教育推進室

和歌山市小松原通一丁目1

TEL:073-441-3729 FAX:073-441-3724

※県教育委員会のホームページにこのパンフレットとその使い方を掲載しています。

[http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500600/0syogai\\_top.html](http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500600/0syogai_top.html)

●このパンフレットは、大阪多様性教育ネットワークの原案を参考に作成しました。

平成 19 年 3 月



このパンフレットは、地球環境にやさしい大豆インキを使用しています。

